

学校だより

1月号



平成28年 1月7日発行
さいたま市立本太小学校
Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

希望に満ちた年に

校長 井出 了一

新年 あけましておめでとうございます。

今年のお正月、この辺りは天候にも恵まれ、穏やかな年の始めとなりました。保護者・地域の皆様におかれましては、健やかに希望に満ちた年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

日当たりのよい校舎の南側に、スイセンの白や黄色の花がたくさん咲いていました。まだまだ厳しい寒さが続くと思いますが、春は着実に近づいているようです。

本日より3学期が始まり、校内にも子どもたちの明るい笑顔と元気な声が戻ってきました。一人ひとりが、新しい年の夢や希望を胸いっぱいスタートしたと思います。

さて、学校にとっては今年度の締めくくりの学期を迎えます。6年生は小学校6年間の総括、巣立ち(卒業)に向けてのラストスパートです。5年生はその後を受けて本太小学校のリーダーとなる時期が近づいてきました。1年生は間もなく入学してくる新入生に、お兄さんやお姉さんとしていろいろな事を教えてあげる年になります。それぞれの学年が、進級に向けて総まとめの時期です。



三猿? よく見て、よく聞いて、しっかり言いましょう



今年は申(猿)年です。昨年6年生と修学旅行に行ったとき、日光東照宮で左甚五郎作と伝わる「三猿」を見ました。神麩舎の周りにぐるりと施された彫刻は、人の一生を猿になぞらえて表したもので、その第二面、少年期には余計なことを「見ざる・聞かざる・言わざる」という教えだそうです。

しかし教育においては、子どもたちを前に よく見て(観て・診て・看て)、よく聞いて(聴いて・訊いて)、しっかり言いきかせていきたいものです。

小学校は、基礎づくり

社会の変化は、ますます目まぐるしさを増しています。このような時代に生きる力を育成するため、いま改めて「基礎・基本」が見直されています。変化に主体的に対応するために、自身の個性を伸長するために、小学校段階での基礎作りが不可欠です。

ところでこの「基礎」というのは、もとは建築用語だそうです。これが勉学など他の所でも比喩的に用いられているのですが、これは見事なたとえです。建物を築く際、基礎は絶対に欠かす事ができません。最初に基礎を造らなければ始まらず、その後いつまでもこれに支えられます。勉学においても、基礎とされる事柄は絶対に欠かす事が出来ません。やはり、これを第一に理解しなければ始まらず、その後いつまでも頼りになります。

本太小学校の子どもたちは、学校や家庭・地域の中で、学習・運動そして心の成長の基礎・基本をしっかり学んでいきます。教職員一丸となって確固たる基礎を築き、その上に一人ひとりの個性を伸ばす教育を続けてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。